「鳥屋小中学校の今後」

Q.秋本議員：鳥屋小中学校が義務教育学校となる際には、地域性、地形、規模が似ていて、同じ焼山ろくにある青和学園の成果や地域との連携・協働の仕組みを見本として生かすべきだと思いますが、今後について伺います。

A.答弁：青和学園の取組を参考にしながら、地域と連携した学習活動や学校運営協議会制度に取り組んでいきたい。

［青和学園への支援を］

Q.秋本議員：青和学園の取組は、学校と地域が連携して子ども達を育てる先進的な教育で、学校運営協議会を軸として進めてきました。本市ではまだ採用されてないが、文部科学省が推進する地域学校協働活動が必要になると考えます。学校を中心とした地域づくりを進めるためのこの取組について伺います。

A.答弁：幅広い地域住民等の参画を得、地域全体で子ども達の学びや成長を支えながら、学校を核とした地域づくりをめざし、学校と地域が連携・協働して行う活動。学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進が教育活動の充実や地域活動の活性化に繋がるので今後の具体的な体制整備の検討していく。

［要望］青野原や青根の地域等には学園や子ども達のための様々な活動があり、バックアップするベースは既にできています。今後は地域における「地域学校協働本部」の立ち上げ等、地域での体制づくりに行政の支援が必要です。その実現に向けての検討を要望します。また、子ども達の様々な活動のチャンスは通常の学校生活ではなかなか得られない、仲間意識や他人を認め尊重する心を育むことができたり、自己肯定感を高めるなど、閉鎖的な環境で起こりがちな人間関係の固定化や、いじめの問題の解決にとても効果的な取組です。青和学園の成果が相模原市全体の教育行政に波及効果を及ぼすモデルとなるよう市の支援を要望します。